

平成24年度 兵庫県立兵庫高等学校 学校評価票

年度目標	「質素剛健・自重自治」の具現化 ・文武両道を目指す ・キャリア教育の充実 ・マナーの向上
------	---

※自己評価の評価基準 [5:よくできた 4:できた 2:あまりできなかった 1:できなかった 0:判断材料に乏しく判断できない]

領域	評価の観点	評価項目	項目番号	実践目標	24年度自己評価					23年評価	本年度の成果と次年度への課題	
					5 (%)	4 (%)	2 (%)	1 (%)	0 (%)			24年評価
学校経営	開かれた学校づくり	保護者・卒業生・地域への情報発信	1	ホームページの更新を実施し、常に新しい情報の発信を心がける	12	51	24	6	7	3.4	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・更新できている部分とできていない部分があった。組織的な取組体制が必要である。 ・学年通信は定期的に発行できているが、手元に届いていないという保護者の声も一部ある。配布物が確実に保護者に届くような工夫も必要である。 ・今年度は、校長以下職員をあげて学校訪問に取り組んだ。また、オープンハイスクールもその内容において中学校から高く評価された。その成果が総合科学類型の志願倍率が2.4倍、複数志願選抜も1.12倍となった。
			2	学年通信を通じて、学校行事の取り組みと成果、進路情報等を保護者に伝える	34	56	0	0	10	4.4	4.3	
		学校紹介の推進	3	中学校訪問を実施し情報交換を行うとともに、広報活動をする	22	59	0	0	19	4.3	4.3	
			4	学校説明会・オープンハイスクールにおいて学校の概要説明、在校生との交流、授業見学、部活動見学を通じて、本校の特色を理解してもらう	53	43	0	0	4	4.6	4.2	
	教職員の資質向上	情報機器の活用の推進と能力の向上	5	ファイルサーバーによって文書を共有化し、管理を徹底する	16	60	18	4	2	3.7	3.6	<ul style="list-style-type: none"> ・校内LANの活用度は年々高くなってきた。一方で共有フォルダー管理がわかりづらくなってきている所もある。 ・今年度から週2日の7限授業実施に伴い会議時間の設定が窮屈になってきている。放課後以外での会議設定が可能となるような対策が必要である。
			6	各種委員会(人権、教育相談、情報など)や研究授業を実施する	6	52	20	6	16	3.4	3.1	
	危機管理体制の整備	防災教育研修会の実施	7	「地震防災・危機管理マニュアル」にそって危機管理体制を整備し、職員の共通認識を深める	2	59	24	0	15	3.5	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時にはマニュアルに基づき警察署や消防署、医療機関など連携を行っている。大規模災害等においても混乱なく対応できるよう一層の周知徹底が必要である。
			8	防災避難訓練を実施し、緊急時対応マニュアルの徹底を図る	6	78	10	0	6	3.9	3.4	
	適正な予算執行	経理事務の厳正化	9	複数の監査体制を確立し、予算請求のマニュアルを整備する	8	50	8	2	32	3.8	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季の空調使用について、優先順を明確にしたことと、デマンド管理に特化したことにより大幅な経費節減につながった。
			10	光熱水費等の経費節減に努める	39	53	0	0	8	4.4	3.9	
教育課程	学習指導	主体的・積極的な学習態度の育成	11	授業における到達目標を明確にし、生徒の主体性を高めるような学習指導を行う	14	74	8	0	4	4.0	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科とも系統的な学習を重視するとともに体験的・問題解決的な学習を取り込み、生徒に興味・関心をもたせるよう学習指導に工夫をしている。特に、学校設定教科「創造」の各科目において充実した活動が展開された。 ・土曜教室では進路講演会、長期休業中の講習では教材の精選を行うなどを行い、充実を図っている。 ・各教科において調査結果等もふまえ生徒の実態に応じ工夫された授業が展開されているが、調査結果の分析や共有については時間の制約もあり不十分な部分も見られる。 ・成績処理システムについては改善の必要性を認める意見が多い。評価法の見直しと並行して検討を進める必要がある。
			12	必要に応じて適切な課題を与え、家庭学習の充実を図る	18	78	2	0	2	4.1	4.2	
			13	土曜自習教室及び長期休業中の補講授業を充実させる	12	61	12	4	11	3.7	3.7	
		効果的な学習	14	生徒の実態に応じた効果的な授業展開を図る	10	80	6	0	4	4.0	3.9	
			15	調査結果を分析・評価し、その結果を教師間で共有して授業改善に役立てる	10	58	21	2	9	3.6	3.3	
			16	調査結果を面談等の資料として生徒と共有し、学習指導改善の材料とする	6	67	8	2	17	3.8	3.7	
			17	成績管理システムの改善を図る(評価ソフトの見直しと開発)	2	14	22	37	25	2.0	2.2	
	生徒指導四綱領「質素・剛健・自重・自治」に基づく指導	モラルとマナーの向上	18	HR、集会(全校・学年)を通して、社会の一員としてのマナーを身につけさせる	14	65	18	0	3	3.8	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・学年や生徒指導部を中心に、集会やHRを通してマナーに関する注意喚起を行ってきた。今年度は登下校時における近隣からの苦情も激減した。指導を継続するとともに生徒が主体的に対応できるよう意識啓発を行う必要がある。 ・様々な行事が生徒自身の企画・運営によって実施されている。生徒個々がそれぞれの役割をしっかりと果たすことでリーダー性が培われている。
			19	登下校指導を通して、通学マナーを徹底させることを学校全体として行う	8	65	18	2	7	3.6	3.5	
		学校行事を通しての人間形成	20	様々な学校行事を通して生徒のリーダー性を育てる	40	50	2	0	8	4.4	4.3	
	進路指導	進路の探求	21	保護者や卒業生を講師としてキャリアサポーターから話を聞く会等を通して、生徒の職業観を育成する。	24	60	0	0	16	4.3	(4.0)	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生全員を対象とした「キャンパストライアル」や「キャリアサポーターから話を聞く会」、2年生対象の「出張講義」をはじめ東京みらいフロンティアツアー、研究室訪問等生徒の進路意識を高める取り組みは充実しており効果もあがっている。今後はこれらの取組を体系的に整理し、より効果を高める工夫が求められる。 ・進路指導部から「進路の手引き」をはじめ様々な情報が学年に提供され活用されている。しかし、大学の改変等の変化に対応できていない部分も見受けられ、内容の一層の充実が必要である。
			22	キャンパストライアル(神戸大学)、出張講義等を通して、生徒の大学・学部・学科に対する理解を深める。	24	61	0	0	15	4.3	4.0	
			23	多様な進路情報を提供することによって各学年と連携を図り、生徒や保護者との面談を充実させる。	17	60	8	0	15	4.0	3.5	
24			東京みらいフロンティアツアーや研究室訪問、インターンシップ事業等に積極的に参加させ、生徒の進路意識の向上を図る。	33	51	0	0	16	4.4	4.2		
特色ある教育課程の充実	教育課程の検討	25	生徒の現状に適した教育課程の編成を図る	14	63	6	4	13	3.9	(3.5)	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程での教育課程について実態をふまえた編成ができた。次年度以降、実施状況を見ながら一層の充実を目指し検討を続ける必要がある。 ・類型での取組は県教育委員会からも高い評価を受けている。次のステップへの進化に向け文部科学省「教育課程編成特例校」の制度を活用し、類型委員会を中心に一層の研究・実践を深めていく。 	
	総合科学類型の学校設定科目の充実を図る	26	総合科学類型委員会を機能させ共通理解を図る	22	49	18	0	11	3.8	3.3		

領域	評価の観点	評価項目	項目番号	実践目標	24年度自己評価					23年評価	本年度の成果と次年度への課題		
					5 (%)	4 (%)	2 (%)	1 (%)	0 (%)			24年評価	
課題教育	保健・安全教育の充実	生徒・教職員の主体的な健康づくり	27	保健指導プリント・保健ジャーナル等を発行し、心身の健康の自己管理能力の向上を図る	22	61	2	0	15	4.2	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・年度途中からキャンパスカウンセラーの配置増があったが、教育相談等に有効に活用することができた。 ・保健委員による「保健ジャーナル」の発行、ポスター作成や衛生当番などで、生徒の公衆衛生に対する意識を啓発した。 	
			28	保健環境部からの情報発信や、保健指導を通じて、生徒の公衆衛生に対する意識の向上を図る	20	59	4	0	17	4.1	3.9		
			29	学校医健康相談・キャンパスカウンセリングの積極的な活用を推進する	22	59	4	0	15	3.2	3.9		
		生徒の事故対策指導	30	運動部生徒への安全講習会(6月)を実施する	26	52	2	2	18	4.2	4.0		<ul style="list-style-type: none"> ・安全講習会や心肺蘇生法講習会等は計画的に実施できており、熱中症による不具合もほとんど発生しなかった。ただ、学校管理下の事故による安全会の給付は例年とおり高水準であり、けが等の防止についても注意喚起をする必要がある。
			31	外部団体の指導により、1年生全員と教職員を対象に、心肺蘇生法とAEDの講習会を実施する	27	65	0	0	8	4.3	4.3		
	人権教育の充実	人権意識を育てる	32	人権に関するHRを年1回以上実施し、命の大切さや人を思いやる心を育てる	18	69	2	2	9	4.1	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習や研修会は計画通り実施できている。引き続き全ての教育活動を通して生徒の人権意識の醸成に努める必要がある。 	
			33	講演会や映画鑑賞会を実施し、人権尊重の精神を高める	18	78	2	0	2	4.1	3.8		
	国際理解教育の充実	自国や外国の歴史・文化の理解	34	インターナショナルデーを生徒主体で企画・開催する	15	48	2	0	35	4.2	4.2	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は諸般の事情により松江二中の訪日が延期となった。そのため来年度は来日、訪中の双方を実施することになるが、事前準備を十分に行う必要がある。 ・松江二中の来日延期により急遽インターナショナルデーの内容が変更となったが、生徒たちの工夫で内容の濃いものとなった。 	
			35	松江二中との友好的な交流を推進する	6	40	4	9	41	3.5	4.3		
	清潔で快適な学習環境の維持	学校美化・衛生意識の向上	36	床磨き・ワックスがけ・モップによる特別清掃や、通学路を中心に学校周辺の清掃を年3回実施する	27	69	2	0	2	4.2	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境の美化については総じて昨年度よりも評価が高まっている。引き続き、生徒会整美委員会を指導し、清潔で快適な学校づくりを進める。 ・ゴミの分別についても評価が高まっているが、環境意識の醸成、ゴミ処理予算の軽減の観点からも一層の取組を進める必要がある。 	
			37	整美委員を中心にクリーンアップ週間などで校内美化を啓発する	10	63	18	2	7	3.7	3.5		
			38	施設・設備の点検と安全を図る	10	62	20	0	8	3.7	3.4		
			39	ゴミの分別を徹底し、ゴミの資源化を図る	14	62	14	6	4	3.7	3.5		
	図書室の積極的活用	図書室の充実	40	クラス読書会、PTAも参加しての全校読書会を充実させる	22	63	0	0	15	4.3	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAも参加しての全校読書会は本校独自の取組であり、誇るべき行事である。しかし、「判断材料に乏しく判断できない」という回答が散見されるなど、内容の周知に工夫する必要がある。 	
41			図書室を充実させ、環境を整備する	13	60	2	0	25	4.1	3.9			

学校関係者評価

評価の観点	主な意見	評価のまとめ
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新を遅滞なく行う方策の検討が必要である。 ・情報発信をHPだけに頼るのではなくPTA会員、武陽会員の希望者にメール等で配信してはどうか。 ・中学校訪問など、校長の率先垂範の対策が功を奏した。 ・学校説明会などの内容を充実させた結果、志願率の向上に繋がった。 ・学校説明会などでの在校生による説明、在校生との交流などの参加が効果的である。 ・学校説明会などで進路結果などをもっとアピールしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、学校通信、中学校訪問と学校説明会、オープンハイスクール等の開かれた学校づくりの取り組み、志願率のアップに大きく貢献している。 ・ホームページの更新体制、学校通信の配布方法の検討、職員による中学校訪問と学校説明会、オープンハイスクールの内容の充実による更なる深化が図られると思うが、学校の情報をよく発信しているのは、生徒自身であり一人ひとりの学校生活の充実感(満足度)が大いに影響すると思われる。その意味でも、学校の教育活動の充実が大切である。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャンバストライアル」や「キャリアサポーターから話を聞く会」など職業観の育成は充実しており効果もあがっており、今後も期待したい。 ・「出張講義」など生徒の進路意識を高める取り組みはすばらしい。 ・武陽会の協力をどんどん活用してはどうか。 ・大学入試結果に対応できる実質的な力もつけてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャンバストライアル」や「キャリアサポーターから話を聞く会」等の職業観の育成、「出張講義」で味わう進路体験、生徒や保護者との進路面談、東京みらいフロンティアツアー、研究室訪問等での進路意識の向上などの意欲的でユニークな取り組みは何かと困難も多いが、大きな成果を上げている。大学入試に対応できる実質的な力もつけて、今後の豊かな進路選択に繋がることを期待している。
特色ある教育課程の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年とともに教員が異動していく中、充実した指導をうまくバトンタッチして伝えてほしい。 ・国際化した社会で自己の意見をはっきり主張できる力が育成できる教育課程を編成してほしい。 ・放任にならず「自由な行動」を保障したうえで人間性の育成をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合科学類型は、県下でも注目される顕著な実績をあげている。更に文部科学省「教育課程編成特例校」制度の活用で充実した教育課程を編成し、より内容のある発展を遂げようとしている。今後も総合科学類型を含む全体の教育課程の充実に取り組み、国際化した社会で自己の意見をはっきり主張できる力の育成や放任ではなく「自由な行動」を保障したうえで人間性の育成を望む。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価票 自己評価も必要だが（昨年度と比較した）数値に囚われすぎないように。 ・これまで大きな成果を上げてきた「伝統の兵庫高校」を大切にしながら、変化する時代に対応して生徒をしっかり育てる「新しい兵庫高校」の推進を望む。 	